

令和6年度 授業改善推進プラン（小学校学級担任用）

福生市立福生第一小学校 第5学年2組

1 福生市学力・学習状況調査の結果				
	分類	意識調査の質問項目	組	全国
学びに向かう力	感情のコントロール	8 家の人は自分のことを気にかけてくれていると思う	100.0%	93.7%
		53 自分には、先生や友だちからほめられるような得意なことがある	91.3%	77.1%
		54 自分の力をできるだけ伸ばしたいと思う	100.0%	91.2%
	目標の達成	18 ふだんから「不思議だな」、「なぜだろう」と感じることもある	52.2%	63.8%
		26 ものごとを最後までやり遂げてうれしかったことがある	91.3%	89.8%
	他者との協働	107 わたしは、友だちの心をききずつけることを言ったり、からかったりしていない。	87.0%	73.7%
	学力と関係が深い質問	29 授業で学んだことを自分なりにノートにまとめ直している。	47.8%	53.2%
		43 調べてわかったことをもとに、考えをまとめることができる。	87.0%	69.2%
52 自分と違う意見も尊重している。		82.6%	91.2%	
領域名		学力調査の分析 ○成果 ▲課題		
国語	言葉・情報・言語文化	▲全国平均正答率を25.9ポイント下回り、(漢字の書き)設問に課題がある。		
	話すこと・聞くこと	▲全国平均正答率を0.1ポイント上回り、(放送されたテーマを選ぶ)設問に成果がある。		
	書くこと	▲全国平均正答率を5.8ポイント下回り、(報告分の下書きの工夫を選ぶ)設問に課題がある。		
	読むこと	▲全国平均正答率を5.8ポイント下回り、(文章の内容と合う文を選ぶ)設問に課題がある。		
算数	数と計算	▲全国平均正答率を28.2ポイント下回り、(四捨五入して、27400になる数を選ぶ)設問に課題がある。		
	図形	▲全国平均正答率を7.1ポイント下回り、(180度より大きい角度を求める)設問に課題がある。		
	変化と関係	○全国平均正答率を3.5ポイント上回り、(伴って変わる2つの数量の関係を式に表したものを選ぶ)設問に成果がある。		
	データの活用	▲全国平均正答率を12.6ポイント下回り、(折れ線グラフの傾きが最も大きい時間帯を選ぶ)設問に課題がある。		
2 児童の実態		3 児童の実態を踏まえた授業改善の取組		
<p>・国語の漢字小テストや50問テストに向けて、自主学習ノートなどで漢字の学習に繰り返し取り組む児童が多くいる。一方で、授業で既習漢字を使わなかったり、漢字の音訓読みの区別がついていなかったりする児童も多く見られる。文章の読み取りでは、根拠となる文章を見付け、筆者や自分の考えを説明しようとする姿が多く見られるが、正しい読み取りができない児童が目立つ。</p> <p>・算数の学習では、どの層の児童も課題に意欲的に取り組んでいる。一方で、ほとんどの領域において全国平均正答率を下回っていることから、基礎的な四則演算の定着が不十分であることに加え、学習した内容を練習したり、他の教科との関連を意識したりして、定着を図る必要がある。</p>		<p>・国語では、漢字や言葉の辞書引きを普段の授業で行い、漢字に慣れ親しむ時間を多くする。また、授業の始めに2分間視写をする時間を確保することで、集中力を高め、漢字を書く習慣を身に付けることができるようにする。また、要旨をまとめる活動を取り入れ、文章の内容を正しく読み取りができるようにする。</p> <p>・算数では、単元で活用する四則演算を授業の始めに行い、基礎的な計算の定着を図る。また、自分の考えを論理的に説明することができるように、単元の導入で既習事項の確認を行う。さらに、「割合」や「帯グラフと円グラフ」の単元では、他の教科や身近な生活との関連を考えさせる時間を確保する。</p>		
4 ミライシードとの連携機能を活用した取組				
個別ドリルの実施状況		令和6年8月末時点で完了している児童	95.6%	(22人/23人中)
確認テストの実施状況		令和6年8月末時点で完了している児童	95.6%	(22人/23人中)